

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>①ICTを活用した授業を推進し、探究型授業の充実を図る。</p> <p>②「コア輪島」「夢道場」などの活動を通して、生徒が主体的かつ発展的に学ぶ姿勢を育成する。</p> <p>③教員の受験科目指導力を高め、3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p>	<p>* GIGAスクール校内研修</p> <p>* 探究型学習の互見授業（オンデマンドも活用）</p> <p>* 教科毎の探究型授業開発研究</p> <p>* 夢道場でフォローアップ</p> <p>* コア輪島、生徒間の学び</p> <p>* スタサポの振り返り</p> <p>* 教科内学習会</p> <p>* 互見授業</p> <p>* 補習の参観</p>	<p>授業でICT機器を活用した新たな探究型の学習を取り入れた教員の割合が</p> <p>A 80%以上</p> <p>B 60%以上</p> <p>C 30%以上</p> <p>D 30%未満</p> <p>模擬試験で英国教総合の平均偏差値45～50の層にいる生徒が偏差値50を超えることができた割合が</p> <p>A 50%以上</p> <p>B 30%以上</p> <p>C 10%以上</p> <p>D 10%未満</p> <p>シラバスや評価の観点等の活用と、教員相互の情報共有により、3年間を見通した指導ができた教員の割合が</p> <p>A 80%以上</p> <p>B 70%以上</p> <p>C 60%以上</p> <p>D 60%未満</p>	<p>73.7%</p> <p>B</p> <p>1年 31.3%</p> <p>B</p> <p>2年 29.4%</p> <p>C</p> <p>84.2%</p> <p>A</p>	<p>成果：「できた」「おおむねできた」と回答した教員が73.7%であった。iPadやChromebookの全員支給、全教室へのプロジェクター配置が完了しており、ICT機器を活用した探究型の授業を取り入れている教員が大半であった。</p> <p>課題：「できなかった」「あまりできなかった」と回答した教員の割合が9月と同じであり、できなかった教員がそのまま推移したとも考えられる。全教員がICT機器を活用した新たな探究型の学習を取り入れることができるよう、学校全体でICT機器の活用法をより一層研究開発していく必要がある。</p> <p>改善策：GIGAスクール構想に基づく生徒1人1台端末を利活用した探究型の授業を学校全体でより一層進めていく。また校内及び校外での先進的な取り組みに関する研修を行い、ICT機器を利活用した探究型の授業力向上に学校全体で取り組む。 教務</p> <p>成果：1年生7月模試で45～50層の16名のうち5名（31.3%）が1月模試で50を超えた。2年生7月模試で45～50層の17名のうち5名（29.4%）が1月模試で50を超えた。</p> <p>課題：50を超えることができなかった生徒については、自ら目標を設定し、自発的に学習するための計画を立案し、その振り返りを通して次につなげる力が不足していた。</p> <p>改善策：2年生に対しては、各回の模試の振り返りの重要性を伝え、効果的な計画立案について指導し、その実行を促す。1年生については、模試の振り返りを定期考査につなげるよう指導する。 進路指導</p> <p>成果：「できた」「おおむねできた」と回答した教員が84.2%であった。年度当初に生徒へシラバスを配付し、年間の指導については見通しを持って指導することができた。また、5教科については教科指導訪問による研究授業を通して教科内での連携がより強まり、指導力を高める意識が向上した。</p> <p>課題：各教科内で指導力向上に関する取組を工夫し、生徒一人一人が進路実現に対応できる学力の向上に繋げることが課題である。</p> <p>改善策：教科会議や授業見学を定期的に行うなど情報を共有する機会を増やし、教科の指導についても若プロの活用を図る。 進路指導</p>
<p>学校関係者評価委員の評価</p>	<p>・ICT機器の活用について「できなかった」「あまりできなかった」と回答した教員が固定化していないか。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・ICT機器の活用について「できなかった」「あまりできなかった」と答えた教員を調べ、活用法を共有する。</p>			

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2. 人間力を向上できる学校 ①「部活道」などの課外活動を通して、主体的で能動的に行動できる生徒を育成する。 ②学校行事を通して、よりよい人間関係を築き他者を思いやる心を育成する。 ③生徒一人ひとりが地域と関わる中で、積極的に自己研鑽する姿勢を育成する。	* 部活動 * ボランティア活動	自ら考え行動する場面を積極的に取り入れることにより、生徒の主体性が高まったと感じる顧問の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	79.0% B	成果：主体性が高まったと「大いに感じている」「感じている」と回答した顧問の割合が79.0%であり、多くの生徒が部活動において主体性を高めることができている。ボランティア活動についてもコロナ禍の制限が徐々に解除され、活動する機会が増えている。 課題：生徒の主体性には個人差があり、一人一人について、より一層主体的で能動的に行動できるように指導をする必要がある。 改善策：各部顧問において、生徒が自ら考え行動した場面に対して、適切に評価し自己肯定感の高揚に繋がるような助言により、生徒の意欲向上を図る。また、主体性が高まった部活動の取組例について学校全体での情報共有を図り、各部での指導に活かしていく。ボランティア活動については情報を発信し、部活動に加入していない生徒にも呼びかける。 生徒会
	* 昼休みの放送 * 目安箱のオンライン化 * セミナー * 文化祭 * クラス紹介動画作成・表彰 * 体育祭 * 生徒議会(2回) * 遅刻ゼロキャンペーン * クリスマスイベント	自己有用感や自己肯定感を高めることを意図して計画・実施された行事や取組の回数が A 10件以上 B 7件以上 C 5件以上 D 5件未満	10件 A	成果：自己有用感や自己肯定感を高めることを意図して計画・実施した行事や取組の回数は10件であり、生徒が充実感をもって取り組む機会が増えた。 課題：新しい行事や取組を提案する際、効果的に周知することができなかったため明確な目的意識を醸成できず、自己有用感や自己肯定感の高揚に繋がらないことがあった。 改善策：新しく行事や取組を提案する際には、その目的を明確に提示し、周知を図るために情報の発信方法を工夫する。また、それらの取組によって他者にどのような影響を与えるか考えさせる場面を設定していく。 生徒会
	* 地域との連携事業	生徒が地域と関わる授業の取組や行事のうち、今年度再開あるいは新規に実施された件数が A 7件以上 B 5件以上 C 3件以上 D 2件以下	5件 B	成果：「輪島塗体験」「わじまティーンラボ」「下野農園との商品開発」「ジュニアアート」「クリエイティブ人材育成事業」において、石川県内・輪島市内など地域で活躍されている方との交流を通して、地域について考える事ができた。 課題：コロナ禍において、地域との関わりに制限があり、地域人材の更なる活用を促進するための方策を研究することが必要である。 改善策：校内の様々な取組において、これまで以上に外部人材や地域の資源を活用する手立てを模索していく。 総務
学校関係者評価委員の評価	・輪島市では小学校、中学校の連携を深めている。中学校、高校の連携も深めて欲しい。			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・教職員間で授業を見に行く機会を増やすなどして、連携を深めていきたい。			

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>3. 地域と共に成長できる学校 ①「WAJI活」を中心に探究的地域学習を充実させ、地域貢献意識の向上と実践力の育成を図る。</p> <p>②輪島市主導の「高校魅力化プロジェクト」と連携し、将来にわたり地域を支える人材を育成する。</p> <p>③小中学校との生徒間交流事業や教員研修をできることから再開し、「オール輪島」で生徒を育てる。</p>	<p>* 「WAJI活」 * 探究活動</p>	<p>「WAJI活」を通して、地域のために何かできるという意識が高まったと感じている生徒が</p> <p>A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p>79.7% B</p>	<p>成果：各自が設定したテーマを基に探究活動を行う中で、地域について興味・関心が高まるとともに、活動に付随した講演会等を通じて、地域に関する知識や理解が高まった。</p> <p>課題：探究活動の推進方法や校内での組織づくりなど、運営方法を改善するとともに、生徒の進路実現との接続性を研究することが求められている。</p> <p>改善策：校内組織や各学年との情報交換・ミーティングの仕組みを工夫することに加え、進路実現の場面で探究活動の成果を活用する方法を更に研究する。 総務</p>
	<p>* 「WAJI活」 * 探究活動</p>	<p>市との連携を通して、学習や探究活動に主体的に取り組む生徒が増えたと感じる教員の割合が</p> <p>A 50%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満</p>	<p>100% A</p>	<p>成果：高校魅力化プロジェクトの特別イベントとして、オンラインで各地の高校生と地域課題探究に関して交流を図るプログラムに参加する生徒もいた。また、2年生においては、高校魅力化プロジェクトのスタッフが、「総合的な探究の時間」の活動について支援にあたり、発表会において助言を得た。</p> <p>課題：時間の捻出が容易ではないが、高校魅力化プロジェクトのスタッフのマンパワーを活かし、本校生徒との良好な関係性を構築しながら、生徒の資質向上に寄与することが必要である。</p> <p>改善策：高校魅力化プロジェクトのスタッフと本校教職員との連携をより円滑に行っていく。 教頭</p>
	<p>* 相互授業参観 * 教科間交流 * ICT機器の利活用研修会</p>	<p>校種間での相互授業参観や教科間交流、ICT機器の利活用研修会等に参加した教員が</p> <p>A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>85.7% B</p>	<p>成果：「できた」「おおむねできた」と回答した教員が85.7%であり、ほとんどの教員が小中学校の公開授業等に参加している。また教師用ICT端末の全員支給が完了しており、これらを活用し研修会などにも多く参加している。</p> <p>課題：小中学校の公開授業等に参加した教員が、その成果を本校での活動に活かしているかどうか、またICT機器の研修でも同様に、その成果を授業などに活かしているかが課題である。</p> <p>改善策：小中学校の公開授業への参加やICT機器の研修が授業改善につながるよう、教員相互の授業参観や、教科間交流における情報の共有をさらに進めていく。 教務</p>
<p>学校関係者評価委員の評価</p>	<p>・高校魅力化プロジェクトの活動を活発にして欲しい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・現在でも、探究活動に関わり、授業にも入っている。さらに地域と学校を結ぶ活動も進めている。今後、さらに連携を深め、できることを増やし、活発化したい。</p>			

令和4年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
4. 多忙化改善を積極的に実現できる学校 ①コロナ禍で制限された行事の規模、再開、廃止を検討し、業務の効率化と最適化を図る。 ②教員の意識改革と業務改善を図り、ワークライフバランスの実現を果たす。 ③タイムマネジメントを生徒に意識させる学習指導、課外活動指導の確立を図る。	* 学校内外の諸行事	廃止あるいは規模の適切な縮小化を図ることのできた行事等の数が A 6件以上 B 5件以上 C 4件以上 D 3件以下	4件 C	成果：現在までに、「自転車乗車マナー一斉指導（第1・2回）」・「PTA総務委員会」・ビジネスコースの「朝市販売実習」の計4件について、規模の適切な縮小化を行っている。 課題：適正化がある程度進んでいることと、コロナ禍に関係する行事の制限等が徐々に緩和されていく中で、活動を元に戻していくこととのバランスを調整する必要がある。 改善策：世の中の情勢を見極めつつ、教育活動の効果と教員の業務の効率化・最適化のバランスにも配慮し、諸行事を検討していく。 <div style="text-align: right;">総務</div>
	* 月2回の定時退校日	教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より A 10%以上減少した B 5%以上減少した C 3%以上減少した D 3%未満の減少	2.6%増加 D	成果：1月までの教員一人あたりの月平均時間外勤務時間について、80時間を超える各月の累計人数は14名から15名となったが、全体の平均時間は11月以降昨年度を下回っている。 課題：教員一人あたりの月平均時間外勤務時間45.9時間から47.1時間に増加したが、主な時間外業務は部活動指導である。特に対外的な活動の生徒引率が多く、5月から7月の3ヶ月について昨年度実績を上回った。また、新型コロナウイルス感染症に係る不測の事態への対応にも多くの時間が割かれた。 改善策：本年度は学級数減と総合学科廃止に伴い教員数が減少したが、部活動の対外活動等については顧問以外の支援にも配慮し、校務分掌等の業務についても不測の事態に臨機応変に対応できるように、業務の平準化への意識を高める。 <div style="text-align: right;">教頭</div>
	* 毎朝の登校指導 * あいさつ運動	生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して A 80日以上 B 70日以上 C 60日以上 D 60日未満	74日達成 (1月12日現在) B	成果：2学期末の時点でB評価の70日以上を達成することができた。 課題：12月から不注意遅刻者0の達成日が減少している。 改善策：担任、学年団や生徒会課との連携・協働や生徒会執行部の啓発活動を継続する一方、1月に実施した交通安全教室の趣旨を踏まえ、事故防止の意識高揚を図り、登下校のタイムマネジメントの適正化に努める。 <div style="text-align: right;">生徒指導</div>
学校関係者評価委員の評価		・不注意遅刻が80日以上を達成できたら、さらに目標を上げて欲しい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		・来年度は100日を目標に設定する。5分前の登校を促し、さらにタイムマネジメントを意識させたい。		

